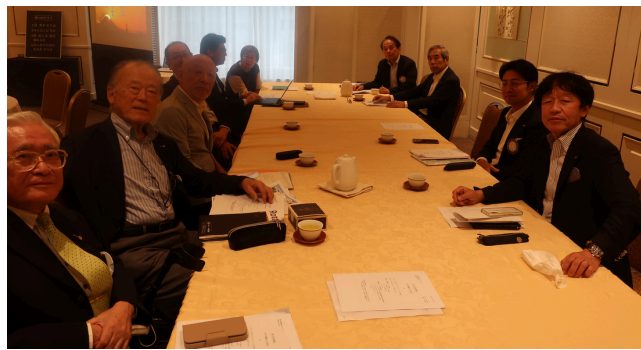


第3回理事会報告

東京池袋豊島東ロータリークラブ
2026－2027年度第3回理事会議事録

日地；2026年9月3日11時～12時10分
会場；ホテルメトロポリタン3F「光」
出席者；石塚会長、高木副会長、鈴木SAA、
細田会計、小泉理事、山本理事、小代理事、
森川理事、榊原理事、加古幹事

報告事項

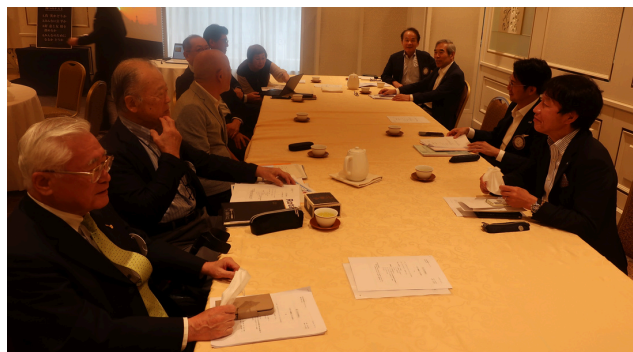
- ① 加古幹事より2026－2027年度8月会計報告。
- ② 国際ロータリー為替レートの9月は1\$160円。
- ③ 9月、10月、11月の例会日程が加古幹事より説明があった。

審議事項

- ④ 名誉会員選任の件について、7月理事会で継続審議となり石塚会長より廣内世英さんと渡邊裕之さんの2名の方の推薦があり全会一致を承認された。
次年度名誉会員選任については今年度年度末の合同理事会で審議することとなった。
理由として、年度が替わったあとになれば就任が年度の途中となるため任期が1年とまらない。
また各審議において、会員身分の審議のため全会一致か多数決は都度審議にて決定する。

- ⑤ ロータリー財団、米山奨学事業の寄付金伺書と寄付金請求書については、希望する会員のみに発行する。
- ⑥ 9月10日ガバナー公式訪問時のクラブ協議会の進行について確認した。
 1. 会員を増やすために取り組んでいることまたはこれから計画していること
1の報告は長尾益男会員増強委員長
 2. 奉仕活動・親睦活動について特に地域に対する奉仕、国際的な奉仕について
2の報告は山本伸也社会奉仕委員長
 3. ポリオ根絶への取り組み
3の報告は佐藤美枝子ロータリー財団委員長
 4. クラブ戦略計画の策定について
4の報告は榊原一久クラブビジョン委員長
 5. 青少年・青少年交換についての取り組みについて
5の報告は森川義基青少年奉仕委員長
 6. 帰属意識と参加促進について
6の報告は石塚丈晴会長
- ⑦ 2027年度カルタ大会実施の予定に伴い、カルタを新しく100セット作成の提案が、山本社会奉仕委員長よりあり予算化されていないため社会奉仕委員会の委員会費の赤字が避けられない見通しであると発言があった。100セットについては発注し、まずは社会奉仕委員会費の20万円のなかから先に充当する。
不足が生じたときに、鈴木孝雄会員より御協力のあった20万円と小林征夫会員の10万円のニコニコで補填する。それでも不足が生じた際は、再度理事会にて対応を協議する。
- ⑧ 支出の決済についての質問が、森川義基理事からあり、資金の決済、会計処理方法、赤字予算の解消に向けて石塚会長より今後実行すると発言があり理事全員で確認した。

以上



東京池袋豊島東ロータリークラブ 第 8 回例会 2026/9/10

3124回

Weekly Report



会長：石塚丈晴 幹事：加古博昭 RI会長：オンラインカ・ハキム・ババロラ 第2580地区ガバナー：谷一文子

【珠玉のことば Part II】

「やったことは例え失敗しても、20年後は笑い話にできる。しかし、やらなかったことは、20年後には後悔するだけだ」

代表作『トム・ソーヤーの冒険』で知られるアメリカの小説家マーク・トウェイン(1835-1910)が言いました。相田みつをに、「やれなかった、やらなかった、どっちかな」という言葉があります。有限な時間の中で、どのように生きるかを考えさせます。(小泉博明)

本日の例会

9月10日(木)12:30～13:30
ガバナー公式訪問

次回の例会

9月17日(木)12:30～13:30
落 語
卓話者：高村光朗 様
高村紙業(株) 代表取締役社長

9月3日 例会報告

司 会	鈴木会員
開会点鐘	石塚会長
ロータリーソング	
ソングリーダー	加古会員
会員総数	27名
出席規定適用者数	21名
本日の出席者総数	22名
// 免除者出席数	5名
本日の出席率	84. 62%
ゲスト：武田 幸雄 様	卓話者/板橋フレンドセンター (板橋三中元校長)
高田 由美 様	地区RYLA委員長 東京板橋セントラルRC

会長報告

1. ガバナー月信2026年9月号のご紹介
・基本的教育と識字率向上：日本には不登校の子どもが35万4千人。ロータリアンが子どもたちの教育のためにできることはまだたくさんあります。
2. 東京池袋西RCオープン例会のご案内
2026年10月19日(月)
受付開始 17:30から
例会時間 18:00～20:30
お食事 18:30～
講演会 19:30～20:15(45分)
閉 会 20:30
会場：ホテルメトロポリタン 3階「カシオペア」
卓話者：株式会社サンドライ代表取締役社長 高橋典弘 様
3. 事務局出勤日
次週出勤日：9月8日(火)、9日(水)、10日(木)
連絡対応時間帯：10:00～16:00

9月

受 付：三林宏幸会員 小代順治会員 鈴木孝雄会員 宮部一弘会員
司 会：鈴木孝雄会員 ニコニコ：横山晴夫会員
写 真：長尾益男会員 ソングリーダー：加古博昭会員



ニコニコ

卓話者 武田幸雄様の卓話謝礼ご辞退を受け、
全額ニコニコとさせていただきます。
本日の合計額：30,000円
今年度ニコニコ累計額：200,000円

地区RYLA委員会より



地区RYLA委員長
東京板橋セントラルRC
高田 由美 様

【国際ロータリー第2580地区
第7回 RYLAセミナー
「共に生きる(共生)とは」のご案内】

- ・2026年10月10日(土)～12日(月)
受講生は2泊3日の全日程参加
- ・国立オリンピック記念青少年総合センター

平素はRYLA(ライラ)委員会の活動に格別なるご指導、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。2026-27年度に開催する第7回RYLAセミナーは、テーマを「共に生きる(共生)」としました。多様性を尊重し、協働的に課題を解決し、一生涯の友情を育むセミナーを目指しております。例年、現地では、受講生が成長する姿に感動いたします。受講生の対象年齢は18歳から30歳くらいまでとし、ロータリアンのご家族、事業所の社員、お知り合いの学生のみならず、ROTEX、ローターアクト、米山奨学生なども対象としております。日程は例年より早く10月の三連休に実施いたします。実際にセミナーに参加できない会員の皆様にも、ぜひ「登録のみ」という形でご支援をいただきたくお願いいたします。皆様のご協力とご支援なしにはセミナーの成功はありません。皆様のご協力を心より願っております。



地区RYLA副委員長 小泉博明会員

RYLAとは、ROTARY YOUTH LEADERSHIP AWARDSの略語で、ロータリー青少年指導者養成プログラムのことである。高田由美地区RYLA委員長から、ロータリーの青少年活動、そしてRYLAセミナーの意義について説明があった。このセミナーに参加することで、「コミュニケーションや問題解決のスキルを磨く」「学校や地元地域で活躍できるリーダーとなる方法を発見する」「地元を動かすリーダーによる指導、意欲を高めるような講演、仲間との交流を通じた学び」「楽しみながら、生涯続く友情を培う」などが可能となる。当クラブから、第7回RYLAセミナーに朱正匯ローターアクトクラブ会長が参加する。なお、ロータリアンは参加できなくとも、登録のみ(現地参加なし)3,000円へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。(小泉博明)

卓話



「新たな不登校対策・SBSルーム」

卓話者 武田幸雄 様
板橋三中元校長、
現板橋フレンドセンター

[著書『AIには書けない！
未来へ贈る校長講話』
(彩流社)]



【卓話者紹介】

武田幸雄、元板橋区立第三中学校校長、現在板橋フレンドセンター所員

4校20年間にわたり校長として学校経営にあたる。「校則の一本化」「標準服の男女別撤廃」「生徒の第三の居場所新設」「宿題の廃止」「端末を活用した授業革新」「部活動の土日祝日の休養日化」などの改革を推進し、「カリスマ校長」と言われた。

校長であっても、教育委員会などの指導がある中で、新たな挑戦は教職員だけではなく、ステークホルダーの保護者、地域住民の理解が必要となる。このような重圧を跳ねのけ、官僚制的な先例主義を取り除き、次々と改革を実行した武田先生の熱量に敬意を表したい。また、2030年度実施の次期学習指導要領も間もなく発表され、こどもが主体的に学び、考える、探求的な学習が進んでいくであろう。

なお、著書に『AIには書けない！未来へ贈る校長講話』(彩流社)がある。

(小泉博明)

【卓話要旨】

令和6年度の不登校児童・生徒数(小中学校)は35.4万人となり、12年連続で増加し過去最多となりました。私(武田)は、平成29年に板橋区立板橋第三中学校に校長として着任し、今年3月に任期満了退職するまで9年間にわたり同校で校長として勤務いたしました。その間には学習指導要領の改訂やコロナ禍など様々な教育変革期がありましたが、私にとっては先の不登校生徒の増加もその1つでした。

個別相談や家庭訪問等、現場の教員は打てる手を打って不登校生の支援にあたりましたが、全国データが示すとおり増加傾向に歯止めはかかりません。そこで、私がそれまでにない手法として設置したのがSBSルームでした。この部屋では、勉強を強要されることもなく、基本的に生徒は自由に過ごせます。イラストを描いたり、タブレットで動画を視聴したり、友達とおしゃべりに興じたりと、訪れた生徒は思い思いの過ごし方を選択できます。もちろん、この部屋で自学自習に取り組む生徒もいました。この部屋を設置した理由は、私なりに分析した不登校の端緒が、大きく「勉強嫌い(学力不振)」と「集団嫌い(対人関係)」の2つに大別できたからです。そのため「勉強しなくていい部屋」「人と関わらなくていい部屋」を設けようと考えたのです。

SBSの意味は「STEP BY STEP(一歩ずつ・少しずつ)」の略です。今やこの部屋は「新たな不登校を生まない部屋」として機能し、生徒にとって家庭でも教室でもない第3の居場所となっています。

(武田幸雄)

SBSルーム(板橋区立板橋第三中学校)

SBSルーム①

- 各種書籍・問題集・教科書・高校案内等を書架に常備
- 各種ボードゲーム・カードゲーム等を常備
- 基本的には自主学习や配信授業、読書、イラスト等静かな活動

SBSルーム②

- 多目的室と併用
- ソファとカーペットを常設し、リラックスして使えるよう配慮
- 卓球台を置き、運動したい生徒が利用
- 大型モニターを常設し、学校行事等を配信

【略歴と概要】

- 令和3年に設置。当初の設置理由は「不登校対策(現に不登校の生徒への支援)」だったが、4年目の現在は上記に加え「新たな不登校を生まないための部屋」へとシフト。
- 開室は基本的に毎日。朝の登校時間から6時間目終了時まで。スタッフは、ボランティアのみ(保護者・PTAOB・学生・寺子屋運営者、児童館長等、7名の方が不定期に支援に来室)

- 学校は教員のほかSC、SSW、学習支援員、特支教室支援員等が不定期に来室して報告・連絡・相談のほか学習支援や雑談、ゲーム等をもに行う。
- 校務分掌に「SBS担当」を設置、窓口の一本化。
- 本年度は、約25名の生徒が利用。内訳は(1年生と2年生が各5名、3年生が15名)過去16名の生徒が巣立ち、いずれも進路を決めている。
- 利用生徒は「朝から放課後までSBS」「授業(時間)によってSBSか教室」「屋前に登校してきてSBS」「登校できる日は限られるが、登校した際はSBS」「区の不登校支援室とSBSを掛け持ち」等さまざま。
- SBSの意味
生徒に向けて → Step By Step(一歩ずつ、少しずつ)
教員に向けて → Stand By Student(生徒に寄り添って)
- 教員側のコンセンサス
「何もさせない(見守る)勇氣」
「教室復帰を目指させない覚悟」
最終的に教育の目的は「人格の完成」(教育基本法第1条)にあるのであり「教室で授業を受けること」はそのための手段の1つに過ぎない(手段と目的を混同しない)。SBSの目的は、いわゆる「別室」としてではなく、教室でも家庭でもない「第3の居場所」の確保。
- 生徒側のコンセンサス
たった1つの校則『Be Gentleman(紳士であれ)』に準じた部屋の利用
目標は先生が決めるのではなく自分が決める(教室復帰の可否・卒業後の進路等)